２０２４・１０・６　　黄金井尚美　主任牧師

＜御国の逆説＞

マルコ９：３０～３７

【understand】　物事・意味・気持ちなどを理解する。受け取る。
他の人の思いなどに共感する。

32 節　they did not <u>understand</u>

【イエスさまと弟子達の旅路】

ピリポ・カイザリヤ‥‥イエスさまが十字架の苦難を告白（1 回目）

↓

山上‥‥キリストの威光を目撃。モーセとエリアと 3 者会談。驚き！感激！

下山すると‥‥

山麓‥‥幼いころから問題を抱えた少年と、その父親が癒しを求め、癒された。

↓

ガリラヤを通って帰途へ‥‥十字架の苦難を告白（2 回目）

◆イエスさまはこのときから、ガリラヤでの宣教活動を終えて、十字架にかかるために、エルサレムに向かおうとしていた。

さて、一行はそこを去って、ガリラヤを通って行った。<u>イエスは、人に知られたくないと思われた。</u>【30 節】

イエスさま･･･最期の時が迫っているという意識

弟子達‥‥‥ 自分達はイエスさまの下で、3 年以上も従ってきたという感覚

イエスさまが世を統治される時が来たら、誰が要職を得るのか？　的外れな議論。
「誰が一番偉いか？」と問う人の関心は、神ではなく自分にある。

パウロは教会をキリストの体にたとえた。

器官は多くありますが、からだは一つなのです。そこで、目が手に向かって、「私はあなたを必要としない」と言うことはできないし、頭が足に向かって、「私はあなたを必要としない」と言うこともできません。それどころか、からだの中で比較的に弱いと見られる器官が、かえってなくてはならないものなのです。　１コリ 12:20～22

「誰が一番偉いか」の陰には「自分が一番偉い」という自惚れがあった？！
自惚れ・・・・実力以上に自分が優れていると思って得意になる。

イエスさまの威光を見た 3 人、ふもとで悪霊を追いだせなかった 9 人。その心情は？

イエスさま　「道で何を論じ合っていたのですか。」
弟子達　「・・・・」
イエスさま　「だれでも人の先に立ちたいと思うなら、みなのしんがりとなり、みなに仕える者となりなさい。」
イエスさま　「だれでも、このような幼子たちのひとりを、わたしの名のゆえに受け入れるならば、わたしを受け入れるのです。また、だれでも、わたしを受け入れるならば、わたしを受け入れるのではなく、わたしを遣わされた方を受け入れるのです。」

◆「この世」の偉さの基準と「神の国」での偉さの基準は、逆転している。
しんがりがトップになり、仕える者が偉い人という逆説。